

四国地区国立大学連合アドミッションセンターの取り組み その1

植野美彦^{1,6}, 岡本崇宅^{2,6}, 湯地宏樹^{3,6}, 大塚智子^{4,6}, 上岡麻衣子¹, 田上一郎⁵, 井上敏憲⁶
 徳島大学高等教育研究センター¹, 香川大学教育推進統合拠点アドミッションセンター²,
 鳴門教育大学大学院学校教育研究科³, 高知大学学び創造センター⁴
 高知大学広報・校友課⁵, 四国地区国立大学連合アドミッションセンター⁶

1. はじめに

2012 年度に文部科学省より採択された「四国 5 大学連携による知のプラットフォーム形成事業」の 1 事業として、四国地区 5 国立大学（以下、5 大学と略す）は「四国地区国立大学連合アドミッションセンター（以下、連合センターと略す）」を中心に、入学者選抜や学生募集の改善に取り組んでいる。これまで多面的・総合的評価のための 5 大学共同調査によるインターネット出願システムの導入や「活動報告書」の開発など（井上ほか, 2017），高大接続改革における大学入学者選抜改革の好事例として文部科学省から取りあげられた実績も有し、協働的な取り組みによる多面的な活動を推進してきた。

連合センターは、2013 年 5 月 13 日に設置され、今年で 13 年目となる。連合センターでは、市場変化への対応として、各大学のアドミッション・ポリシーに合致した入学希望者の獲得に向け、これまで近畿地区や東海地区、そして中国地区において協働的かつ多面的な取り組みによる入試広報活動（特に高校教員向け）を積極的に展開してきた。しかし、地元である四国 4 県での活動がこれまで十分に行き届かなかつたことから、今年度より四国 4 県での活動を強化する方針とした。本稿では、多面的な取り組み「その 1」として、四国 4 県の入試広報活動の実施状況と本活動における高校教員の反応を明らかにし、今後の連携事業のあり方を検討する。

2 高校教員対象四国地区国立大学合同入試説明会（徳島・高松・松山・高知会場）の実施状況

先述のとおり、四国 4 県で、高校教員を主な対象とする「四国地区国立大学合同入試説明会

（以下、入試説明会と略す）」をスタートし、大学紹介の他、各大学の取り組みや入学者選抜の情報を各大学とも 25 分間で説明の上、終了後に個別相談に対応した。開催日程及び郵送案内による申込・参加状況を表 1 に示す。また、終了後に入試説明会に関する質問紙調査（集合調査）を実施し、表 1 にその回答数を示した。ここでは、入試説明会の実施状況の分析を行う。

表 1 入試説明会開催日程・参加状況等

会場・日程	申込人数	参加人数	調査回答数
徳島(9/25)	23	23	20
高松(10/7)	23	24	21
松山(10/8)	16	15	14
高知(10/14)	19	16	15
総計	81	78	70

※調査回答数は研究利用に同意のあった人数

（1）参加者の属性

参加者の属性（図 1a）は、全校の進路指導担当の割合が最も高いが、2 年生担当の割合が高いことも特徴的である。連合センターからの案内通知において、年内入試の拡大等に伴う進路選択の早期化の観点から、四国地区においては 2 年生担当の参加を積極的に促したことその影響が大きい。逆に 3 年生担当の割合は低い。また、通信制高校からの参加者はこれまでほとんど見られなかつたが、ここ数年において参加が僅かながら増加傾向であることは着目しておく必要がある。

（2）満足度等

満足度は、図 1b の通り、上位評価が 96% と高い。これまで、四国地区外での開催を 2014 年度

以降、毎年継続実施した蓄積もあり、そこで改善を繰り返した成果と言える。また、満足度に呼応する形で各大学の説明時間(図 1c)や内容(図 1d)に関する評価も高い。ただ、内容については「入試説明会」と告知しているためか、学部説明より入試説明(特に学校推薦型や総合型選抜)に時間を更に割いて欲しいといった要望が目立つため、今後の見直しが必要である。

(3) 国立大学合同の開催

5 大学合同開催については、高校からは賛同の声が極めて高い(図 1e)。5 大学は志願者獲得競争の観点では競合関係にあり、大学側の視点において合同開催は様々な見解があるだろう。しかし、合同開催によってコストを分担できるメリットやそれを支持する高校の声が圧倒的に高く、このことを踏まえた募集戦略の検討が必要である。

(4) 開催希望時期、形式

開催を希望する時期は、9月や10月の開催を60%の教員が希望している(図 1f:回答は複数選択可)。また、図 1g は高2学年担当に 対象を絞ったデータとなるが、概ね 70%の教員が9月10月開催を希望し、高松会場においては中間考査の時期と重なり、むしろこの時期の方が参加しやすいといった声が複数みられた。これまでの入試説明会は6月開催(1学期中)が一般的と考えていたが、低学年を対象とする会は、この時期の開催に賛同する声が多い。これは、低学年向けの各種イ

ベントや高校訪問を検討する際に参考となる。

開催形式は対面を望む声が半数を超える(図 1h)。ライブ配信はコストメリットが高いものの、開催しても視聴者が日常業務を優先してしまう可能性があり、長時間開催は不向きかもしれない。

3 今後の連携事業のあり方

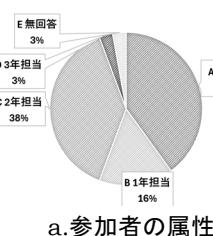
連合センターの取り組み「その 1」として、今回は四国 4 県の入試広報活動の実施状況と高校教員の反応を述べた。5 大学連携による入試広報関連事業は、高等学校側の受け止めがよいことは明らかである。今後の連携事業のあり方として、この入試広報関連事業を深化・継続するとともに、人口減少の中、真に高大接続をよりよいものにするために、各地域における高等学校の動向を連合センターが正確に把握し、それを 5 大学の入学者選抜や大学教育の改善に活かすことも必要だろう。今後もその動向調査を進め、連合センターで続編を取りまとめて行く予定である。

謝辞

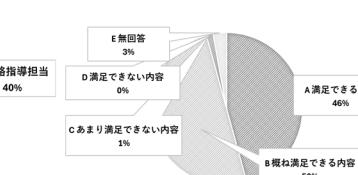
質問紙調査の趣旨をご理解・承諾の上、ご協力いただいた、調査対象地区の高等学校教員 70 名の皆様に心から感謝いたします。また、入試説明会の開催に多大なご支援をいただいた、連合センター事務担当(愛媛大学教育学生支援部入試課入試企画・広報チーム)ほか関係の皆様にも厚く御礼申し上げます。

参考文献

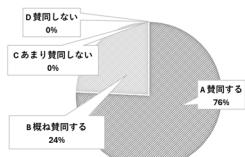
- 井上敏憲、中村裕行、前村哲史、植野美彦、立岡裕士、岡本崇宅、大塚智子(2017)。「四国地区国立 5 大学共通のインターネット出願と多面的・総合的評価への取り組み」『大学入試研究ジャーナル』27, 91-96



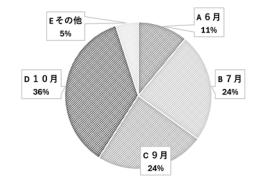
a. 参加者の属性



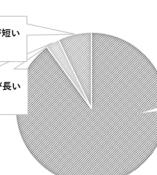
b. 満足度



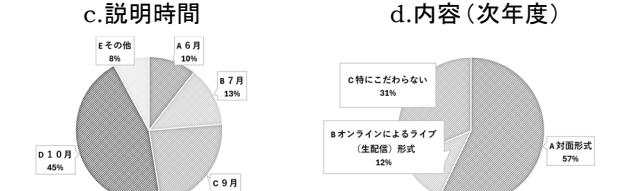
e. 国立大学合同の開催



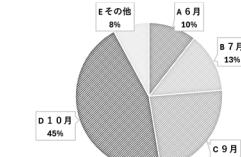
f. 開催希望時期 (全体)



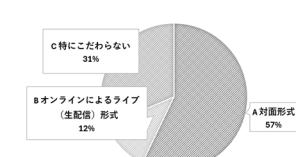
c. 説明時間



d. 内容 (次年度)



g. 開催希望時期 (2年生担当)



h. 開催希望形式

図 1 入試説明会における高校教員の評価(質問紙調査) n=70